



る、而して兩者ともに蒙古の招請によりて北向せるものなれば、此等の人々の通過する最も普通の道は、支那より魚兒泊に至るの間、及び黒山より吾悞竭腦兒に達するの間、共に兩者の經たる所のものなるへし、而して魚兒泊より黒山に出る普通の道も、もとよりまた德輝の經たる所のものなるへきや論なきのみ、果して然らば德輝經由の道は、支那と蒙古の都とを通する公道なるとともに、曾て長春か經過せる時に、野狐嶺以北撫州に至る迄人煙を見すと云ひ、また沙陀中にも人を見すとなし、魚兒樂に至りて始めて人煙を認むと記せし道を、彼は明かに住民驛舎あるを云ひて『野狐嶺以北諸驛、皆蒙古部族所分主也、每驛各以主者之名名之』と記し、また漠中にも驛の存